

（仮称）練馬区農の学校基本計画（素案）に対する
区民意見等の概要と区の考え方について

1 区民意見反映制度に基づく意見募集

(1) 周知方法

平成24年2月1日号ねりま区報および区ホームページに掲載

(2) 募集期間

平成24年2月1日から平成24年2月20日まで

(3) 意見の受付状況

区 分	人 数	件 数
郵送	0	
ファックス	0	
電子メール	7	
持参	0	
合 計	7	10

2 意見等の概要と区の考え方

<p>計画に反映した項目（0件） 既に趣旨が記載されている項目（8件） 個別事業において検討する項目（1件） 対応できない項目（1件）</p>

	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
1	（仮称）練馬区農の学校を卒業した方に対して、どのように農に関連する仕事を生み出していくのか。	農業者の支え手としての活動はもとより、農のイベント支援や農園利用者の相談役などの農に関する伝え手として、多様な活躍の場を創出していきます。なお、詳細については実施計画で検討いたします。	

	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
2	（仮称）練馬区農の学校で育成する農業の担い手が、農家個人の所有地に入って作業することになるのか。農作業の支援には、農家との信頼関係が重要であり、個々の農家が柔軟に対応できる人づくりをお願いしたい。	支え手を必要とする農業者と農作業を支援したい支え手が、お互いを知ることが重要だと考えています。そのため、実習の講師を農業者に依頼したり、受講生・修了生が農業者を訪問し話を聞く機会をつくるなどの農業者と支え手の交流機会を設けていきます。	
3	担い手の育成とあわせて、今求められるのは、農のおもしろさを伝える人、そして地場野菜・商品を購入する人であると考え。そのためにも、区民の感覚と農業者の思いを相互理解できる人づくりが大事であると考え。	（仮称）練馬区農の学校が取り組む農の魅力や農作物に関する情報発信により、都市農業を応援する区民の裾野が広がることで、地場野菜の積極的な購入にも結びつくと考えております。また、支え手が農業者と交流する機会を設けることで、農に関する相互理解の醸成を図ります。	
4	初級コースのような、野菜作りの素人も農を楽しめる学びの場の創出に賛成である。早期実現を願う。	農の魅力や都市農業・農地の大切さを理解する区民の裾野をひろげていくために、（仮称）練馬区農の学校では、都市農業に関する様々な知識や技術を段階的に学ぶことができる場を提供いたします。	
5	農地保全は、子ども達の豊かな生活環境を残す意味でも重要である。（仮称）練馬区農の学校の実現によって農地保全に結びつけば良い。	区民一人ひとりが農との関わりを持ち、地域全体で都市農業・農地を支えていくことが、農地の保全にとって重要であり、（仮称）練馬区農の学校はその一助となるものと考えております。	

	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
6	既存施設を「サテライト施設」として活用することは、現在の財政が厳しい中、有用な事であると思う。	（仮称）練馬区農の学校では、中核拠点となる施設の機能を補う「サテライト施設」を必要に応じて設けることとしており、この「サテライト施設」は基本的に既存施設の活用を考えています。	
7	農業を目指す人が勉強する方法は各種あり、新たに「（仮称）練馬区農の学校」を設置することは、運営経費が増えると考えられることから賛成しない。	都市農地は、安全・安心な農作物を供給するだけでなく、環境保全・防災等へ寄与するなど多面的で重要な役割を担っており、区民の財産として保全すべきものと考えています。また、都市農業（区内農業）の振興は、農地保全に繋がるだけでなく、区の重要な産業であることから必要なことと考えています。 今回の（仮称）練馬区農の学校については、その目的の一つとして、農業従事者の高齢化による人手不足などに対応する支え手を育成し、区内農業者とマッチングのうえ農作業の軽減を図り、農業の振興を進めていくこととしています。	
8	第一編の「人材育成・活用の課題」には「コーディネーター、農業者と支え手の交流の場が課題」とあるが、第二編の「人材の育成・活用に向けた取組」の中には、コーディネーターについてふれられていない。コーディネーターは育成しないということか。	農業者と支え手のマッチングを進めるコーディネータ機能は、（仮称）練馬区農の学校が担うものとしています。	

	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
9	福島原発事故の影響で、放射能が土壌にも降り注いでいると考えられる状況を踏まえ、その対応策についても触れていただきたい。土壌の放射能測定方法、放射能を土壌から減らす研究、放射能を吸着しやすい作物などについて紹介するなどの対応が考えられる。	（仮称）練馬区農の学校における個別のカリキュラムは、放射性物質に関する内容等を含め、実施計画の策定の際に検討いたします。	
10	現在登録しているボランティアを続けていくためには（仮称）練馬区農の学校に入る必要があるのか。 また、農業ボランティアに登録しても農家から依頼がないという方が周りにいる。ボランティアが盛り上がるような制度は含まれているのか。	（仮称）練馬区農の学校を修了しなくても、ボランティアを継続していただくことは可能です。また、（仮称）練馬区農の学校は、人手を必要とする農家と農作業の支援を行いたいボランティアなどをマッチングさせる場（農家と支え手を結ぶ仲介の場）としての役割を担うこととなります。	